

食事及び食事空間に関する研究

- 第1報 食事及び食卓の演出に対する意識について -

○正岡さち（島根大）

【目的】近年、余暇の時代ともいわれ、生活を楽しむ時代になってきた。そういった時代を反映してか、食に関しても、ただ作って食べるだけでなく、テーブル・コーディネートのように「食を演出する」ことも注目されるようになってきた。そこで、本研究では、調理や食事、食卓や食事空間の演出に対する意識を明らかにするとともに、食事空間の実態を明らかにし、今後の食事空間のあり方を探ることを目的として、調査を行った。

【方法】食卓テーブルと椅子のある食事空間を持つ住宅を対象とし、松江市内を中心とした99戸を個別訪問して、意識調査・実測調査及び写真撮影を行った。意識調査は、主婦もしくはそれに該当する家事担当者とし、質問紙留置自記法で、直接配布・直接回収により行った。調査期間は1997年8月上旬～9月下旬である。

【結果及び考察】調理が好きという人は約半数、インテリアに興味がある人は4割強であった。調理に関しては、栄養バランスや味へのこだわりといった栄養補給の側面だけでなく、食事の雰囲気や大切に作る傾向も強かった。さらに、食器に関心がある人は約8割であり、料理やインテリアに興味がある人ほど、食器は道具として以外にも、食卓を演出する重要な要素として捉えていた。また、食卓を演出するための工夫は約半数が行っており、主な工夫は、食器にこだわる・花を飾る等である。工夫をする理由としては、食事が楽しく、おいしく食べられるからが多かった。調理好きの人ほど食卓演出の工夫をしており、作った料理に対する配慮まで行っているといえよう。